

施策の柱	子どもの心とからだをはぐくむまちづくり
施策名	家庭、地域教育力の向上

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 家庭教育学級	社会教育課	小中学生の保護者	家庭における教育力の向上を図る。
(2) 子育てアップチャレンジプラン	社会教育課	小学校3学年の児童とその保護者	家庭教育力を向上し、子どもたちの生きる力の育成を支援する。
(3) 指導者研修会	スポーツ課	地域や団体における生涯スポーツ、競技スポーツの指導者及び体育指導委員	地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの指導者として、スポーツ理論及び実技等を通じて指導者としての意識向上を図る。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 家庭教育学級	年間を通して事業を実施	引き続き実施する。
(2) 子育てアップチャレンジプラン	19年度から実施	引き続き実施する。
(3) 指導者研修会	20年2月3日 春日市スポーツ指導者研修会開催	22年2月7日 春日市スポーツ指導者研修会開催予定

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 家庭教育学級	学級生 121 人 基本学習会 8 回 シリーズ学習会 14 回 企画研究会 6 回 (実践日が別に 4 日間) 推進委員会 10 回
(2) 子育てアップチャレンジプラン	実施結果報告件数 2,081 件 (児童 1,046 件、保護者 1,035 件) 基本メニュー実践率 86.7% チャレンジメニュー実践率 児童 87.5%、保護者 88.2%

(3) 指導者研修会	21年2月1日 春日市スポーツ指導者研修会開催 約200人の参加
------------	-------------------------------------

4 成果と評価

家庭教育学級については、家庭教育についての重要性が学級生に拡大し、浸透してきた。また、研究会等を通して、学級生の自主性も芽生え、学校や地域のリーダーとして活躍する人が増えた。

子育てアップチャレンジプランについては、「父親が協力的になった」、「家族での行動、コミュニケーションが増えた」、「子どものお手伝いが増えて、家事の負担が減った」等の成果があり、家庭教育力を向上することができた。

指導者研修会については、市内の地域や団体における生涯スポーツ、競技スポーツの指導者及び体育指導委員の多くが参加し、指導者研修会の開催意図である指導者としての意識向上を図ることができた。

5 今後の課題・取組の方向

子育てアップチャレンジプランについては、事業実施の必要性を学校と協力しながら各家庭に、より啓発し協力を呼びかけていく。

指導者研修会に参加された方から、講義の内容が難しいとの意見も出ているため、講義の内容を見直すこと等により、より良い研修会にしていく必要がある。

施策の柱	子どもの心とからだをはぐくむまちづくり
施策名	子どもの活動・体験の推進

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) アンビシャス広場	社会教育課	市民	地域に子どもの居場所(活動拠点)を設ける。
(2) 「郷土かるた」カルタ取り大会	社会教育課	小学生	郷土春日をよく知り、郷土を愛する心を持つ青少年を育てる。
(3) ふれあい体験王国	社会教育課	幼児、小中学生	遊びや物づくりを通して体験機会を提供する。
(4) アジア太平洋こども会議(APCC)	社会教育課	小学校5学年及び6学年の児童がいる家庭	国際感覚に優れた青少年を育てる。
(5) 弥生の里児童画大賞展	社会教育課	福岡県内の小学生	心の豊かさ及び個々の独自性を育む。
(6) 歴史体験事業	文化財課	市民	夏休み及び秋休みの文化財体験教室を実施する。
(7) 図書館探検隊	図書館	小学生(3～6学年)	図書館の仕事を体験し、図書館に対する興味及び理解を深める。
(8) 運動適性テスト	スポーツ課	スポーツ少年団団員	スポーツ少年団団員の体力を把握する。
(9) マラソン・駅伝大会	スポーツ課	小学生以上の健康な男女	健康増進を目的としたスポーツの普及・振興を図る。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) アンビシャス広場	19年度開設、18広場 事業費 11,500千円 開所日数 2,131日 参加者 子ども(45,156人) 大人(18,035人)	21年度 19広場 県補助対象事業が年々縮小することから、本事業に対する市単独事業費による事業推進のあり方を検討する。
(2) 「郷土かるた」カルタ取り大会	地域子ども会対抗で 12チームの参加 アトラクションでジャンボカルタ取り実施	9月 子ども会育成会長会で参加依頼 11月 子ども会育成会長会でカルタ取り体験

		12月末 参加チーム申込締切り 1月上旬 参加名簿を締切り
(3) ふれあい体験王国	16年3月から実施	引き続き春休み及び夏休みに実施する。
(4) アジア太平洋こども会議 (APCC)	カンボジアのこども大使8人とシャペロン1人を受入れ 対面式及び市長表敬訪問 学校登校を4日間実施	モンゴルのこども大使8人とシャペロン1人を受入れ 対面式及び市長表敬訪問 学校登校を2日間実施
(5) 弥生の里児童画大賞展	平成4年度から実施 19年度以降 テーマを設定せずに実施	21年度 テーマを設定せずに実施
(6) 歴史体験事業	歴史散歩 11年度から年2～4回実施 延べ667人参加 親子体験教室 11年度から実施 現在年7回、 平均150人参加	児童期の体験により歴史に興味を持たせることで、文化財保護の意識が高い市民を育成していく。
(7) 図書館探検隊	毎年夏休みに小学生(3学年から6学年まで)を対象に、図書館業務の体験(本の貸出や装備等)を行う。	21年度 夏休みに実施 昨年度より実施日を1日追加(5日間) 22年度以降 継続して実施予定
(8) 運動適性テスト	毎年1度実施	事業を継続
(9) マラソン・駅伝大会	19年11月25日 第33回春日市走ろう大会実施	21年11月22日 第35回春日市走ろう大会実施 予定

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) アンビシャス広場	18広場 開所日数延べ2,068日 参加人数 子ども59,331人 大人13,969人 事業費11,500千円
(2) 「郷土かるた」カルタ取り大会	地域子ども会対抗12チーム、140人の参加 9月の子ども会育成会長会で参加依頼 11月に子ども会育成会長会でカルタ取り体験 12月末に参加チーム申込を締切り 1月上旬に参加名簿を締切り

(3) ふれあい体験王国	Summer Special (夏休み開催) 春祭り (春休み開催) マイ箸作り、万華鏡作り、弓矢作り等の体験機会を提供 各 500 人参加
(4) アジア太平洋こども会議 (APCC)	ハワイのこども大使 8 人とシャペロン 1 人を受入れ 対面式及び市長表敬訪問 学校登校を 2 日間実施
(5) 弥生の里児童画大賞展	テーマ 心に強く印象に残っているもので、一番描きたいもの 授賞式 平成 21 年 1 月 25 日 (日) 入賞者展示期間 21 年 1 月 25 日 (日) ~ 2 月 8 日 (月) 応募者数 11,093 点 展示会来場者数 1,491 人
(6) 歴史体験事業	歴史散歩 ・ 20 年 5 月 17 日 40 人、市内遺跡見学 ・ 20 年 11 月 11 日 36 人、市内及び市外の水城跡関連バスハイク 親子体験教室 全 7 回、延べ 211 人 (土器作り、ガラス玉作り、草木染め、縄文クッキー作り、紙すき等)
(7) 図書館探検隊	実施日数 4 日 参加者数 21 人 (当日キャンセル 3 人) 前年度参加者数 24 人
(8) 運動適性テスト	年 1 回実施 市内のスポーツ少年団 (約 20 団体) が参加
(9) マラソン・駅伝大会	第 34 回春日市走ろう大会実施 20 年 11 月 30 日 個人の部参加者 316 人、駅伝の部参加チーム 12 チーム

4 成果と評価

アンビシャス広場については、「地域ぐるみで子どもを育てよう」をスローガンに、各小中学校区ごとに学社連携及び協力の具体的な取組としてスタートした。本事業は、前身の放課後子ども教室から 6 年目を迎え、各地区においても定着化が図られている。各小中学校がコミュニティ・スクールとして、地域と家庭が協力して、次代を担う青少年の育成に取り組むに当たっての具体的な実践のモデルとして、地域の教育力の向上及び活性化に大いに貢献している。

「郷土かるた」カルタ取り大会については、異年齢集団の中でカルタ取り大会を実施することにより、互いに思いやる心がはぐくまれ、春日に愛着を持つ心が生まれた。

ふれあい体験王国及びアジア太平洋こども会議 (APCC) については、子どもたちに貴重な体験機会を提供できた。

弥生の里児童画大賞展については、応募総数が 1 万点を上回り、回を重ねるごとに市民を始めとして広く定着度を増している。

歴史体験事業については、小学生を対象に土器等の製作体験をすることで、先人の工夫及び苦勞を体感することができた。

図書館探検隊については、図書館での職業体験により、子どもたちの図書館や職業（仕事）に対する興味が深まった。

運動適正テストについては、スポーツ少年団団員の運動能力のデータを十分に把握することができた。

マラソン・駅伝大会については、毎年、継続して大会を開催しているため、大会の認知度も向上し、市外からの参加も多く、前年度よりも参加者数が増加した。また、年々参加者数は増加傾向にあり、多くの人の健康増進に寄与することができた。

5 今後の課題・取組の方向

アンビシャス広場については、県の補助制度の動向にも注視しながら今後も事業の推進を図る。併せて、県アンビシャス広場の新規広場受付期限（平成23年度）までは、新たな広場の開設に向けた取組を行っていく。

「郷土かるた」カルタ取り大会については、各子ども会及び学校で実施されるよう郷土かるたに対する定着化が課題である。

ふれあい体験王国については、家庭の日を第3日曜日に限定していることが課題である。

アジア太平洋こども会議（APCC）については、会議の周知並びにホストファミリーの受入れの確保及び通訳の人材確保が課題である。

弥生の里児童画大賞展については、費用対効果を踏まえた事業の推進を図る必要がある。

歴史体験事業については、児童期の体験により歴史に興味を持たせることで、文化財保護の意識が高い市民を育成していく。

図書館探検隊については、内容、募集方法、実施時期等を検討し、より参加しやすくする必要がある。

運動適性テストについては、今後も引き続き事業を継続し、毎年のスポーツ少年団団員の運動能力の把握を行い、青少年の健全育成に役立てていきたい。

マラソン・駅伝大会については、参加者数が増加傾向にあるが、まだ十分な数とはいえない状況である。今後は、スポーツ少年団と合同での開催等により参加者数の増加を目指し、更に健康増進を目的としたスポーツの普及及び振興を図る必要がある。

施策の柱	子どもの心とからだをはぐくむまちづくり
施策名	読書環境づくりの推進

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 子ども読書活動推進計画策定	図書館	市内の子どもと 子どもの読書にかかわる大人	子どもの読書と読書にかかわる活動を推進する。
(2) 全市図書館システムの整備	図書館	学校図書館 市民図書館	人的ネットワークを構築し、資料の共有化を図る。
(3) 学校図書館支援体制の整備	図書館	司書教諭 学校図書館司書	学校図書館の活発な活動を支援する。
(4) 小中学校での図書館利用ガイダンスの実施	図書館	児童生徒 教職員	市民図書館を有効に活用する。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 子ども読書活動推進計画策定	19年度 作成に向けての前準備を行った。	平成21年10月 計画発効
(2) 全市図書館システムの整備	図書委員会において、学校図書館と市民図書館間の情報を共有化	図書館協議会の答申を踏まえ、最適な図書館システムを構築する。
(3) 学校図書館支援体制の整備	14年度以降 学校連絡便運行開始(2小学校で試行) 17年度以降 全小学校運行開始 学校団体貸出の実施 児童カウンターでの相談業務	学校連絡便及び団体貸出、相談業務等を継続する。
(4) 小中学校での図書館利用ガイダンスの実施	図書館見学、体験学習、総合学習等での小中学校児童生徒の来館	積極的に学校に出かけ、市民図書館の利用方法等のPRを行う。

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 子ども読書活動推進計画策定	作成連絡会 全体会及び分科会をそれぞれ3回実施した。 アンケートの実施 児童生徒 10月調査(全員) 5歳児 2月の小学校入学説明会で実施 0歳児及び3歳児 2月及び3月の乳幼児健診会場で実施
(2) 全市図書館システムの整備	図書委員会(年3回)を読書推進のため、学校教育課と共同で実施した。 学校図書館と市民図書館の情報の共有化 総合学習及び調べ学習の年間計画調査 学校図書館と市民図書館間の相互貸借の可能性の検討 図書館協議会において、学校図書館と市民図書館との連携の在り方について協議
(3) 学校図書館支援体制の整備	20年9月 中学校学校連絡便の運行開始(市内全小中学校で学校連絡便運行) 20年5月、6月 学校ボランティア向け講座の開催 20年7月 図書委員会において読み聞かせの実演を行う。
(4) 小中学校での図書館利用ガイダンスの実施	図書館から学校に出向いてのガイダンスの実施について検討を行った。 学校におけるボランティア研修会の実施(1校)

4 成果と評価

子ども読書活動推進計画作成の着手、中学校学校連絡便の運行開始、学校図書館と市民図書館との連携の在り方についての図書館協議会への諮問等、子どもの読書環境づくり推進の取組がより活発になった。

5 今後の課題・取組の方向

平成21年10月完成予定の春日市子ども読書活動推進計画を踏まえ、子どもの読書活動の推進を関係所管と連携して積極的に行う。
 また、読書活動の推進に欠かせない市民ボランティアとの協働をさらに推進し、子どもの読書活動を多面的に支援する。